

学校目標『元気いっぱい 自分から学び 共に高め合う西与賀っ子』の育成



にしよかっ子

令和 6年12月9日(月)

文責 校長 大石 文枝 第16号

☎ 0952-23-6300

㊦ここにあいさつする子 ㊧しっかり勉強する子 ㊨よろこんで働く子 ㊩からだをきたえる子 ㊪ながり学び合う子 ㊫ころをみがく子

■ 家族で触れあって、心の豊かさを育てましょう

現代社会は物に溢れ、一見すると豊かな生活です。「○○がほしい」と願えば、何でもすぐに手に入ります。子供たちもそんな生活に何の疑問も感じることなく生活している気がします。私自身も「ほしい」欲求に支配されてはいけないと時々、立ち止まって考えることはあるにしても、今の豊かさを手放す生活はできません。でも、だからこそ物の豊かさが心の豊かさにつながる訳ではないことはいつも心に留めておきたいと思うのです。12月から1月にかけては、家族で過ごす楽しいイベントや集まりも多いのではないのでしょうか。こんなときこそ、物の豊かさではなく心の豊かさで、子供たちを温かく包み込んでほしいと思います。きっと、家族を愛し、家族から愛されて育った子供は、誰にでも愛情を注ぐことのできる人になることでしょう。かの有名なマザーテレサは「愛のスタートは、家族である」と言われたそうです。

家族で触れあうこの時期の家族団らんの時間を、ぜひ大切にお過ごしください。

■ 1年生 昔遊び体験

11月26日(火)に1年生は、昔遊びを体験しました。昔遊び体験のゲストティチャーは、地域の老人会の皆様です。その日は、大雨でしたが、子供たちのためならばと、25名の方が来てくださり、遊び方の指南役を務めてくださいました。運動場で、棒で輪車回しなどの活動は残念ながらできませんでしたが、子供たちは、体育館でコマや竹とんぼ、あやとり、おはじき、お手玉などを使った昔遊びに挑戦しました。

老人会の皆様は、とても丁寧に優しく手取り足取り教えてくださいました。しかし、これまで一度もやったことのない遊びを体得するのは至難の業で、悪戦苦闘の子供たちでした。それでも、めげることなく何度も何度もがんばる1年生でした。うまくおはじきを当てたり、竹とんぼを飛ばせたりすると「やったーできた」と嬉しそうでした。

これらの遊びを「昔」遊びと呼ばなくてはならないのかと・・・少々感慨深いです。なぜなら、これらの遊びは、私が小学生の頃は、学校から帰って近所の子と普通に遊んでいました。最近このような体を使う遊びをやらなくなっていて「昔」というのでしょうか。もうじきお正月がやってきます。この他にも道具を使う遊びには、羽根つきや凧揚げ、すごろく、福笑い、道具を使わない遊びには「はないちもんめ」や「かごめかごめ」など、昔遊びと称されるものはたくさんあります。大人数が揃われるお正月に親子で、ご親戚で、伝統的な遊びを楽しまれてはいかがでしょうか。そのときは、昔遊びを体験した本校1年生以上の子供たちが先生役として活躍してくれるかもしれません。



竹とんぼ、遠くへ飛んでけー



あやとり、指動かして!



お手玉、まっすぐ上げて!



コマ回し、紐を巻くのも大変だ

※12月13日(金)人権ふれあい講演会です。全盲のアスリート今井裕二さんをお招きしての講演会です。12:45開場13:15開演です。保護者や地域の皆様のご来場をお待ちしています。

■ 第2回代表委員会開催

11月25日(月)に、「西与賀小のみんなが挨拶名人になるためにできることを考えよう」という議題で、代表委員会を開催しました。「全員が挨拶名人になって笑顔あふれる学校にしたいから」が提案の理由です。本校は、挨拶が響き合う学校も目指していますので、今年の4月赴任当初は、「立ち止まって自分から進んで挨拶をする子が多くて、すごいなあ」と感心したものです。ただ、1学期の前半からすると最近では、少しマンネリ化したのか声が小さかったり大人から挨拶されてから挨拶を返したりする様子が見られて少し気になっていました。次の一手を打たなければと思っていたところ、子供たちもそれは同じ思いだったようで、「全校で挨拶を盛り上げたい」と代表委員会で話し合うことになったのです。

話し合った結果は、スーパースペシャル挨拶名人を見つけることとその人を褒めることに決まりました。

スーパースペシャルな西与賀小版挨拶名人は

「立ち止まって、大きな声で、目を見て、自分から、笑顔で」の5つの挨拶ができる人です。この5つができている人を見つけたら、先生でも子供でも名前を書いてポストに投函できます。投函されたものは、お昼の放送の「ほめほめタイム」で放送されます。スーパースペシャル挨拶名人を目指して、子供たち、只今、奮闘中です。

朝の交通当番をしながら、この取組が効果てきめんなのを実感しています。



各学級の意見をすり合わせていく子供たち

■ 5・6年生 しめ縄作り体験

12月2日(月)に5・6年生は、しめ縄作りを行いました。この行事は、私が以前、西与賀小に勤務していた頃から行われていた年末恒例の行事です。一人暮らしの老人の方に子供たちが作ったしめ縄をお配りして、新年を健やかに迎えてもらおうというものです。このしめ縄作り体験は、地域の社会福祉協議会の皆様のご協力とご指導のもとで行いました。農家以外、現在の家庭では、稲わらを目にする機会はほとんどありません。

ましてや稲わらで縄を編んでいく作業は、誰もやったことはないでしょう。きっと苦戦するに違いないと高を括っていたのですが、あっという間に、約120個のしめ縄ができあがりました。それは、6年生は2回目で、昨年度の要領をよく覚えていて手際がよかったこと、それから何といても当日手伝いに来られた方が36名もいらっしやったことが要因でしょう。子供たちは、地域の皆様に手ほどきを受け、楽しそうに作業に励みました。出来栄えにも満足いっぱいの様子でした。地域の皆様と良いふれあいの時間ともなりました。



4人一組で作業中

★嬉しい電話2★ 地域の方から嬉しい電話がかかってきました。

私は、地域の者です。徒歩で西与賀町を歩いていて、突然の雨に遭い、ファミリーマートの軒下で迎えが来るまで雨宿りをしていました。急な大雨で、上半身がびしょぬれ状態でした。ちょうどそこを黄色いランドセルカバーをかけた1年生4人(男の子3人、女の子1人)が通りかかりました。私の様子を見て「大丈夫ですか?」「かさを貸しましょうか?」などと心配の声をかけてくれました。なんと、1年生が!です。「迎えを呼んでいるから大丈夫ですよ。」と言っても、いつまでも心配そうに振り返り振り返り帰って行きました。今の時代に、こういう風に相手の立場に立って相手を思いやることのできる子供たちがいるなんて、とても感心しました。やさしい子供たちが育っていて、素晴らしい学校ですね。 という内容でした。

⇒入学式で話した「やさしさ」の種をちゃんと育てている1年生です。嬉しい限りです。